

シニア4階級が新設

今大会から追加された壮年クラス。

壮年男子(50〜59歳)重量級(70キロ以上)は、国内無敗の早田信(極真熊本)が50歳となり、この階級に初出場。「世界大会で胸を二カ所骨折。骨はくつついているが、痛みがまだある」という早田であったが、統一全日本で対戦した武蔵清亮(極真横浜戸塚)、工藤康弘(康心会)を共に本戦旗判定5-10で勝利し、決勝へ。決勝の相手は試合巧者の加藤一博(極真横浜戸塚)。



壮年男子(50〜59歳)重量級(70キロ以上)決勝、「今までは練習のし過ぎにより拳の骨折等の怪我を招いていた。今大会から一週間前から休みを入れた」という早田信(極真熊本/170cm/79kg/50歳)が連合杯3位の加藤一博(極真横浜戸塚/172cm/75kg/54歳)に再延長4-1。

攻めた早田に旗が2本。延長戦では逆に早田の攻撃をいなし、最後にラッシュを仕掛けた加藤に旗が一本上がり、再延長へ。再延長戦は早田が突きを織り交ぜながら、中段蹴りまでつなげて、旗判定4-1。国内連続優勝記録を10へと伸ばした。

壮年男子(40〜49歳)重量級(70キロ以上)は「2014年のウエイト制重量級1位」の実績を持つ金鍾吉(極真関西)が5年ぶりに試合に出場。「一般と壮年どちらにも出場しようか迷ったが、統一大会のシニアの部を見て魅力を感じた」という金はブランクを感じ



壮年男子(40〜49歳)重量級(70キロ以上)決勝、5年ぶりの試合となる金鍾吉(極真関西/178cm/88kg/40歳)が志賀賢一(極真愛媛/170cm/92kg/42歳)に本戦旗判定5-10。

させない動きで決勝まで勝ち上がる。決勝戦では序盤に顔面段打があったものの、極真愛媛で戸田美智男師範の指導を受ける志賀賢一との接近戦に打ち勝って、本戦旗判定5-10。家族の前でカッコいい父の姿を披露した。



壮年男子(40〜49歳)軽量級(69.9キロ以下)決勝、福田高広(福田道場/177cm/69.5kg/47歳)が連合杯4位の砂川寛英(極真沖縄/168cm/68kg/49歳)に上段蹴り(技有り)を決めて、本戦旗判定5-10。



壮年男子(50〜59歳)軽量級(69.9キロ以下)決勝、西村季記(極真関西/177cm/69kg/51歳)が内藤雄二(天志道場/167cm/69kg/51歳)に再延長3-1。



1〜3位の皆さん。ウエイト制はグラントチャンピオン決定戦終了後の午後5時過ぎから開始。今大会よりシニア種目が追加された関係で午後9時半に終了。

RESULT

壮年男子(50〜59歳)重量級①早田信(極真熊本)②加藤一博(極真横浜戸塚)③大西賢紀(極真関西)④工藤康弘(康心会)
 壮年男子(50〜59歳)軽量級①西村季記(極真関西)②内藤雄二(天志道場)③川村明(極真横浜港南台)④本田哲生(極真城西)
 壮年男子(40〜49歳)重量級①金鍾吉(極真関西)②志賀賢一(極真愛媛)③塚本鉄兵(優至会)④伊藤雄(世界全極真)
 壮年男子(40〜49歳)軽量級①福田高広(福田道場)②砂川寛英(極真沖縄)③三ヶ嶋文英(練)④工藤一彦(優至会) ※6/26関西総本部発表